

みえるものとみえないもの展



期間 2020年9月18日(金)～27日(日)

時間 11時～16時(期間中無休)

場所 JR宇和島運転区扇形車庫

愛媛県宇和島市錦町10-6 (JR宇和島駅徒歩3分)

会場には駐車場がありませんが、土日祝は南予地方局の駐車場がご利用可能です

会場はJR四国宇和島運転区車庫敷地内のため入り口にて安全対策ヘルメットをご着用いただきます。小学生以下のお子さんのご入場は大人のご同伴を、また、コロナ対策のためマスクのご持参をお願いいたします。

入場無料

JR宇和島運転区扇形車庫再生
準備事業 ギャラリー活用
第一回

中島 崇

みえるものとみえないもの展

愛媛県の宇和島駅近くにある JR宇和島運転区扇形車庫の、やわらかな光線が差し込む広い空間とその建物は、アーティストやクリエイターの創作意欲を刺激する個性豊かな展示空間として素晴らしい可能性を秘めています。

この場所を市民が親しむギャラリーとして再生することを目標に地元の多方面の方々との協力を得て展覧会を企画、この度開催する運びとなりました。

車庫が経てきた長い間はひっそりと棟内に溜まり、窓から差し込む光線はその溜まりに反射しやわらかにほぐされ漂います。この場に何かを足し添え、ここにあるけどはつきりみえないものを見る「頼り」とする、様々な作り手の「添え」を通してこの場所をより見るシリーズとしてこの展覧会を企画しました。

第一回目には、遊休不動産を文化的に活用した芸術プロジェクトとして、横浜市で2008年に開催された展覧会『交差する平行線』の参加作家とキュレーターをこの場に迎え、ストレッツフィルムを添えとし、ダイナミックに会場のやわらかな光線を浮かび上がらせます。
(床下土風S)

中島 崇 (作品制作)

「宇和島の扇形機関庫を訪れた時、巨大な空間と窓から差し込む光、営まれていた人と汽車との時間、外側からではわからないその濃密な場所の記憶に触れ、作家としての興奮を覚えています。」

現代美術作家。東京出身大田区在住。1994年桑沢デザイン研究所写真研究科卒業。2001年ドイツ・ベルリン在住。帰国後、大規模な空間作品を美術館や芸術祭、ギャラリーにて発表を続けている。

タムラ・マサミチ (展示キュレーション)

「素敵な場所があると誘われてここに訪れたのは滝のような雨の中。激しい雨音の下で雨雲ごしの淡い光が空模様そのままに移ろう、本当に素敵な場所でした。大切に守られてきたこの場所は、空をも受け止める大きな器です。」

翻訳者・キュレーター。神保町 Tana Gallery Bookshelf および airport 主宰。フランス ECHANGEUR22 の東京担当として国際交流に関わりつつ、場所・空間に即した展示を手がける。

新津保 朗子 (企画・総合キュレーション)

「遠目に見るだけであつた車庫を、市民と一緒に過ごしながらみあう場所にしたかった。長い時間を経過した枯れた空間はおおらかに作品と見手をつなぐギャラリー、自然な枝ぶりの木々に囲まれ艸草と転げ寝転び、土と風と空に親しむ原っぱが似合うと思った。」

東京都出身、京都市上京区在住。空き家活用デザイナー。松山市中島と京都西陣で空き家を活用し国内外の芸術家・クリエイターの文化交流拠点を運営する床下土風主宰、隈研吾建築都市設計事務所企画室長。2016年から松山市中島の紅茶つくり参加を機に愛媛県と縁が深まる。

主宰：床下土風 (お問い合わせ info@yukashita-tsuchikaze.jp、ウェブサイト yukashita-tsuchikaze.jp)
後援：JR 四国・宇和島市観光物産協会・宇和島市・伊予銀行・隈研吾建築都市設計事務所



「JR宇和島運転区扇形車庫再生準備事業」とは？

宇和島とその周辺の人や地域の交通を、1941年の昭和16年から守り続けてきた宇和島運転区扇形車庫。長い間市民の傍にあり、人々の記憶に深く刻まれてきた歴史的建築を市民の場所へ再生するプロジェクトです。
この車庫は明治時代にイギリスから輸入されたレールを使い建てられ、その敷地には桜をはじめとした樹々が自由にゆったりと育ち、周囲を流れる大池川は夏には蛍が飛び交います。このような自然と文化的な素質に恵まれた環境にありながらも老朽化のために維持が困難となっている状況の中、建物の再生活用と敷地の自然を活かした市民が親しむ場所づくりのために「JR宇和島運転区扇形車庫再生準備事業」が計画されました。
建物は文化の発信・交流拠点となるギャラリー、そして車庫前に広がる平地は緑豊かな市民の憩いの広場へ、地元宇和島やその他多様な分野の方々との協力を受けながら、実際に空き家の文化拠点運営を行う任意団体「床下土風」により企画、協働による自立した運営体制の構築とその実現を目指して取り組みが始まりました。
2020年～2021年度の二年間は、様々な専門家とこの場所の可能性を試みる準備プロジェクトとして行い、この展覧会がギャラリー創設に向けた第一回目のプログラムです。

今後の予定 2020年～2021年度 ギャラリー事業 2021年度秋 第二回目、公園化事業 花見原っぱ整備、蛍の川整備 等